

# 古事記日本神話の故郷は北部九州だった！

～天岩戸・八俣遠呂智と邪馬台国の謎～

著者 淤能碁呂太郎

出版社 (株)ドリムキングダム編集部

価格 1650円(税込)

発売 2020年12月10日 九州の大手書店、Amazonで取り扱っています

本文

前著『古事記日本神話の故郷は玄界灘の島々だった』神話を伝承と科学で読み解く『古代史論』の第2段。

前著で提示した「国生み神話＝渡来人玄界灘制圧史の神話化説」に基づき、続く神話である天岩屋戸神話とヤマタノオロチ退治神話が、ともに玄界灘から筑紫を中心に北部九州で展開した史実を基にした神話である可能性を、皆既日食シミュレーション・地名・遺跡・遺物の内容と神話の合致点から論証する。

更に邪馬台国の記述についても新見解を提示。北部九州説でさえ重要視されてこなかった有力比定地間の方位のずれから、「夏至日の出＝真東基準方位観」があった可能性を指摘。魏志韓伝・魏志倭人伝ともに同じ方位観で記述されていたことを発見した。魏志倭人伝に書かれる女王の都がどこであるかを推測し、北部九州説における方位問題を完全に解決した。

